

議題 1 景観計画区域行為届出書の審議について（資料）

- ・届出会社：株式会社 SaKatec（サカテック）
南巨摩郡身延町手打沢 1271
- ・届出場所：富士川町 青柳町 3492 番地（資料 P2 位置図）
- ・社屋写真：社屋現況写真参照（資料 P3～P4）
- ・届出色彩：マンセル値 10R5/14（資料 P5）
- ・採用理由：別添理由書参照（資料 P6～P7）

【審議内容】

会社事務所の色彩の変更を行うにあたり、会社側から提示された色彩について富士川町景観計画の景観形成基準に抵触している。

会社側には富士川町景観計画についての説明を行っているが、変更する色彩に対する思い入れが強く、当該色彩を採用する理由書を提出してきた。

景観審議会委員におきましては、景観形成基準と当該色彩を採用したい理由を勘案し、審議をお願いしたい。

【参考資料】

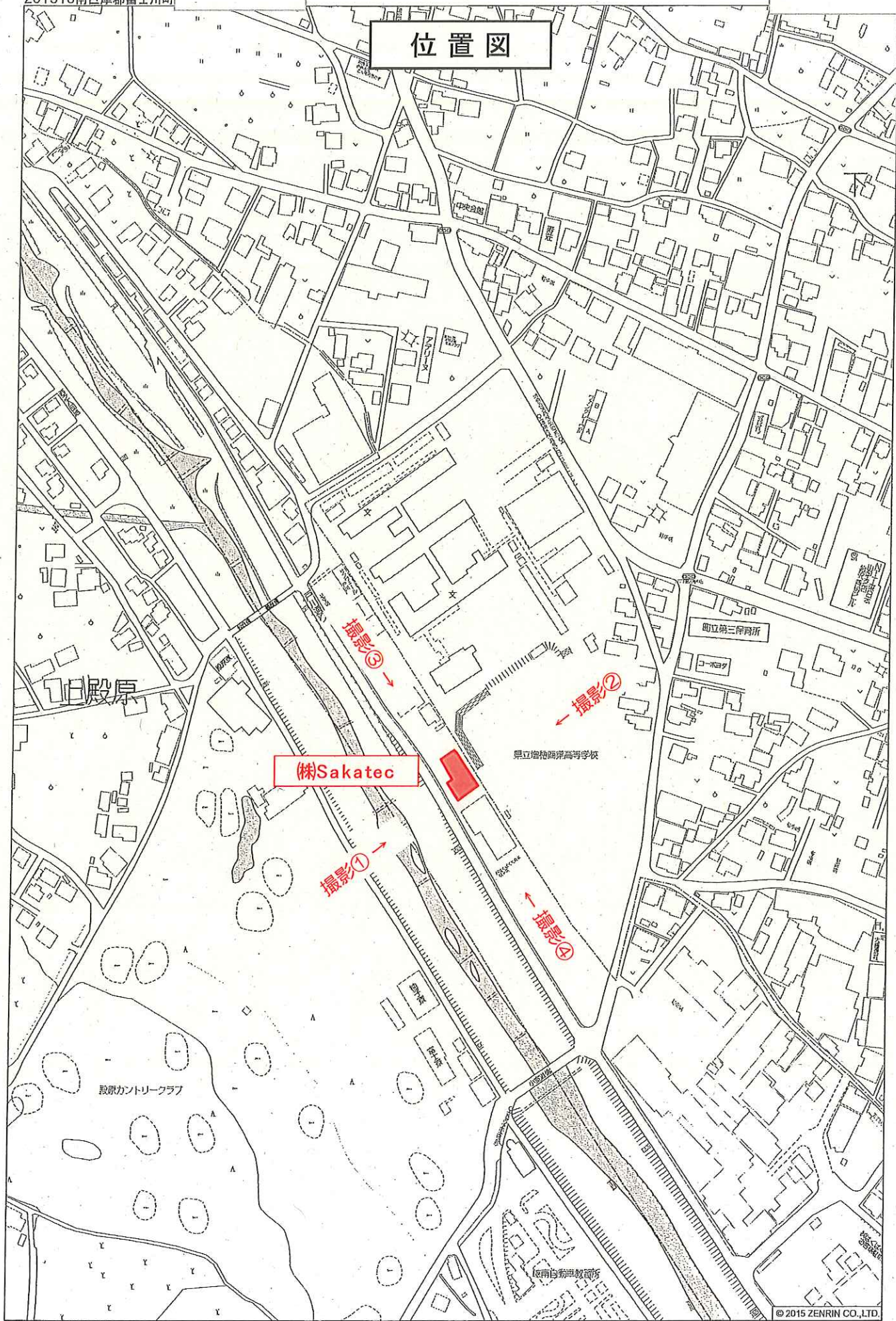
- ・富士川町景観計画（P36）

対象景観形成地域：田園居住景観形成地域

景観形成基準：建築物の色彩等

1. 外壁及び屋根の色彩は、低彩度で、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、背景の自然景観、周辺のまちなみ景観や田園景観に調和した色調とする。
2. 使用する色数はできるだけ少なくなるように努める。

位置図



社屋現況写真



(株)Sakatec 社屋
現況写真 正面

撮影 ①



(株)Sakatec 社屋
現況写真 背面

撮影 ②

撮影項目

社屋現況写真



(株)Sakatec 社屋
現況写真 左面

撮影 ③

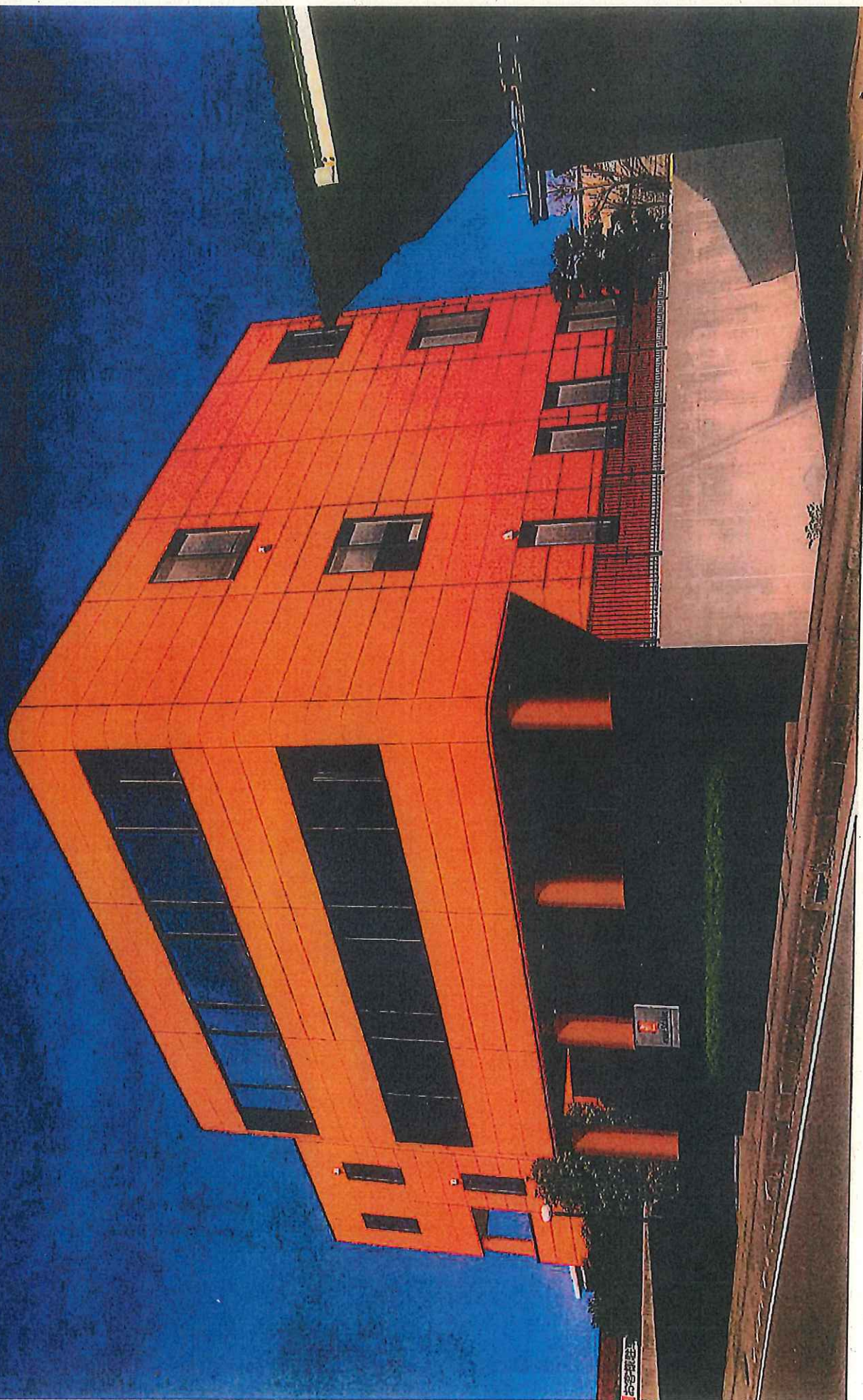


(株)Sakatec 社屋
現況写真 右面

撮影 ④

撮影項目

マンセル値 (10R5/14)



イメージ図 (外観色彩変更)

この話は一通の訃報が届いたことから始まる。

それは平成 30 年 8 月 9 日滋賀県のある災害復旧工事の現場からであった。

2016 年 4 月・九州の熊本地震・震度 7・国道 325 号線の阿蘇大橋が橋脚を支える地盤がずれたことにより崩落した。直ちに九州地方整備局は災害復旧に着手し大手ゼネコン各社は復旧に着手、私達も大手ゼネコンから協力要請を受け現地へと向かった。現地は余震が治まらず、一般の立ち入りを制限しての復旧であり困難を極める展開。道路は被災の為通行不能。建設機械や資材の搬入計画を検討した結果、建設機械の無人化施工の、技術を持つ私達の出番だった。

ヘリで阿蘇山頂へ小型重機を分解して運搬、組立重機 5 台で、立ち入り禁止区域の崩落土砂の掘削を完了させた。当社の機械は無線操縦でオペレータが遠隔操作し、操縦席にオペレータは搭乗しない機種である、後にこの技術は日本土木学会賞を大手ゼネコンと同時に受賞を果たした。現在はこの技術はわが国には 2 社しかない。

現在も災害復旧や火山予防対策、道路建設、港湾事業などあらゆる建設現場で全国的に活用されている特殊工法である。

さて、話は最初に戻るがそれはわが社の社員。彼は前記の熊本阿蘇でも主力で活躍してくれ、業界では屈指のオペレータの訃報であった。

私は目の前が真っ暗になり、その場に立ち尽くし立ち上がることも出来なかった。なぜなら彼は私がこの会社を立ち上げる時からずっと、2 人 3 脚で私が兄、彼は弟同然のような存在だったからである。短い時間ではあったと思うが色々なことが込み上げ、ふと思った。

私は寂しさのあまり「山梨から広島に帰ろう」と思った。また愛する弟の葬儀をしてあげなければと思い、夢中で広島の彼の実家に向かったのを不思議と今も思い出す。

社葬として執り行い山梨から大型バス 2 台で広島に向かった。涙が止まらない通夜と葬儀の 2 日を過ごした。

葬儀の際、子供は小さく棺で眠る彼の耳元で「パパ起きて、早く起きて」と囁く。傍らで愛妻の泣きじゃくる姿、両親は息子を返せと私に迫る。こんなにも苦しいことが今まであったのだろうか、その光景は二度と忘れることは出来ない・・・

原因は中腹で機械の操作中、突然の落石があり夢中で操作していた為、気付くのが間に合わず頭に受けそのまま滑落したとの事。上方の作業員が大声を出したが、あいにく天候も悪く、見通しも悪く即死であったそうであまりにも不運な話である。

建設関連の作業服は汚れが目立たない比較的地味な色の作業着で天候が悪くても、鮮やかで動きの分かる色であったなら彼の命を救えたのではと私は思い、そして私は深く反省をした。一度は広島に帰ろうと決めていましたが、会社の皆のことを思うと私はだけの思いだ

けでは済まず、そうだ地域の皆があるから今があるのだと感謝の気持ちを大切にしなければ、亡くなった彼にも申し訳ないと思い直し、逃げたらだめだ、心機一転身延から富士川町に本社機能を移転して、まず彼の死を無駄にしない為に 200 名ほどの社員の作業服を、現場で目立つ色、高速道路の従事者なども着用しているオレンジ色にすべて変えた。会社名も昨年 10 月株式会社 S a k a t e c (サカテック) と改名して、今年 1 月から新しく、旧・はくばく食品研修所を譲り受け、改装も終わり最終段階に入った、地元の富士川町のみなさんも多く働いている。今までお付き合い頂いたすべての皆様に感謝すると同時にこれから地元の企業として注目されるような活躍をするにはこれを期に改革を図り、亡くなった彼の為にも富士川町に暖かな思いやりのある明るい職場、そしてお互いを思うやさしさ、さらに地域でも注目されるような企業を目指して進めていきたい。長々と綴りましたが、決していたずらな思いでお願いをしているわけではありません。私達は本気です。どうか私達の熱い思いを感じ取って頂き、命の尊さを教えてくれた社屋のオレンジカラーの配色について、理解の上ご審議下さるよう宜しくお願い申し上げます。

周辺を含めたイメージ図

修景前



修景後

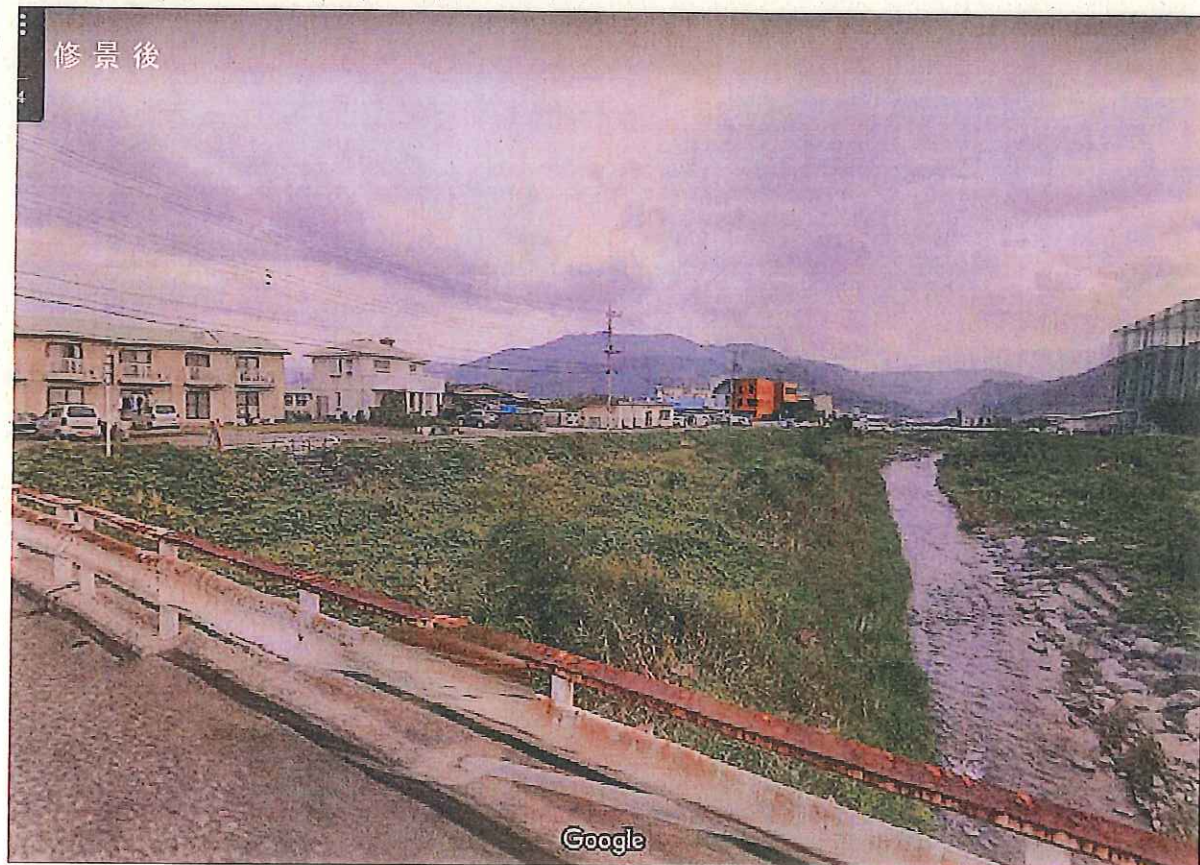


周辺を含めたイメージ図

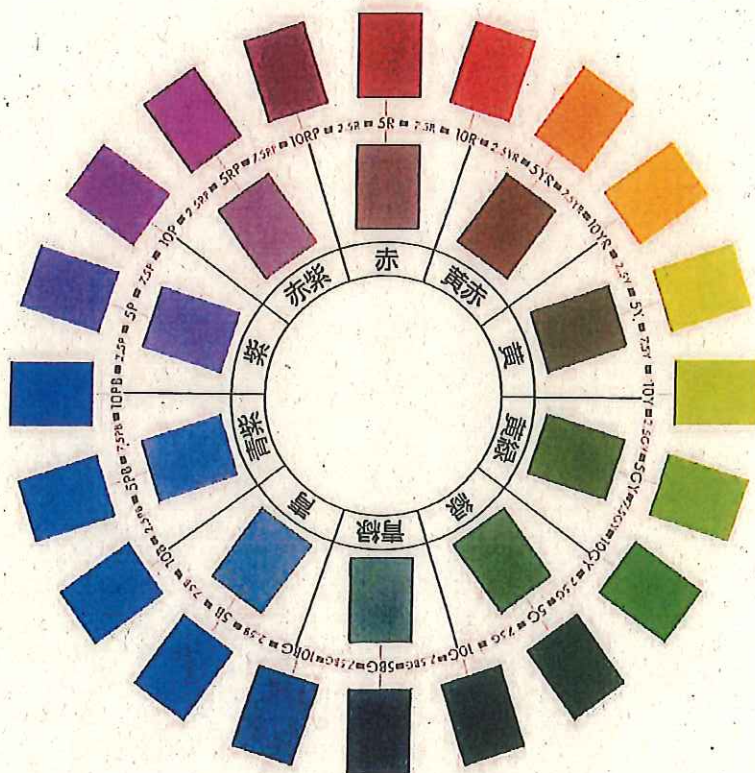
修景前



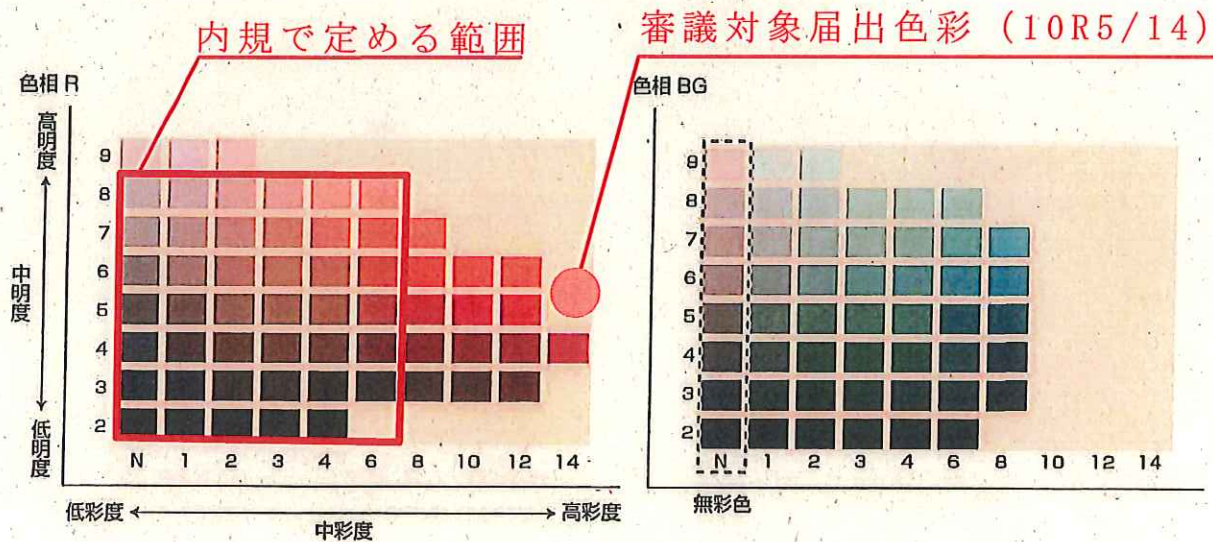
修景後



色 相 表

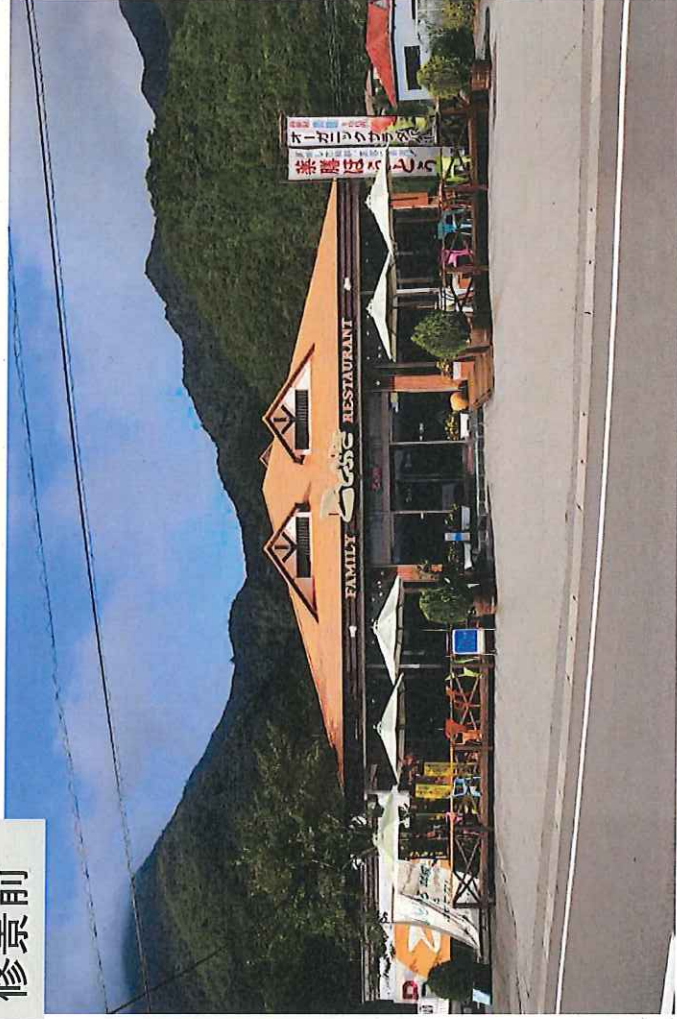


【色相環図(マンセル色相環と JIS 基本色名)】



【マンセル表色系の明度・彩度図】

修景前



富士河口湖町
ファミリーレストラン ことぶき

景観形成支援事業 H27対象物件

「ことぶき」ことぶきのイメージカラー
がオレンジ色であり、施主もオレン
ジ色を使用したい意向があった。



入口上部屋根 鳩小屋飾り



建物右側側面

修景後



- ※エントランスのオレンジと一体的にテラスを演出。チェアを軽やかに見せることで、爽やかな印象に。
- ※シンボルカラーをウッドデッキのパラソルや看板の切り文字部分にアクセントとして使用。